

1. 事業の位置付け

事務事業名	中学校視聴覚機器整備事業		
事業担当	教育総務部 教育総務課		
予算科目	01-100301-030000	事業種類	● ハード      ○ ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標 1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	01	① 〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	児童・教員	事業期間	平成20年度～平成20年度
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/>		
目的・目標		事業の概要	
時代に即応した視聴覚機器を導入することにより、生徒の授業への興味・関心が高まり、理解が深まるとともに、教員の指導技術が向上します。		視聴覚機器の老朽化及び地上波デジタル放送に対応するため、機器類の整備を行います。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	地上波デジタル放送機器整備校数						単位	校
	説明・算定式	整備対象校数：全15校							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		—	15	—				
	実績		—	15					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	視聴覚機器整備率						単位	%
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		—	100	—				
	実績		—	100					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
地上波デジタル放送機器の整備により、生徒の授業への興味・関心が高まり、理解が深まるとともに、教員の指導技術が向上しました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	義務教育において根幹をなす経費で、必要不可欠なものです。	● 高 ○ 低
	有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	当該事業において教材や校具等を整備することにより、本市の教育の発展及び学力向上に寄与することができます。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	義務教育においては、憲法に無償の規定があり、市が経費の負担を行う必要があります。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	現行の経費を最大限に活かし業務を行っていきます。	● 高 ○ 中 ○ 低	
今後に向けた課題の分析 平成20年度で整備が終了しました。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			—	機器類の整備	—			
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	80,325	0	0	0	0
事業費 (A)		0	0	80,325	0	0	0	0
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.00	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	0	924	0	0	0	0
フルコスト (A+B)		0	0	81,249	0	0	0	0

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 平成20年度で整備が終了しました。	
平成22年度 of 取組方針	
課長コメント	視聴覚機器の更新により、学校のIT化を推進するとともに、教員の指導力向上を図ります。

## 5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	—	①：予定どおり
主な取組と成果			地上波デジタル放送機器の整備により、生徒の授業への興味・関心が高まり、理解が深まるとともに、教員の指導技術が向上しました。
検証結果	—	—	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題			平成20年度で整備が終了しました。
事業の方向性	—	終了	終了
取組方針			
事業区分	—	—	—

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

# 事業評価シート（平成20年度分）

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	小学校学校図書館図書充実事業		
事業担当	教育総務部 教育総務課		
予算科目	01-100201-030000	事業種類	<input type="radio"/> ハード <input checked="" type="radio"/> ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	児童・教員	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/>		
目的・目標		事業の概要	
学校図書館をさらに充実することで、児童の主体的な学習が可能になり、豊かな情操・確かな学力がはぐくまれています。		学習情報センターとしての学校図書館を機能させるため、調べ学習などで利用する学校図書館図書を充実します。	

## 2. 事業の検証

活動指標①	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
成果指標①	指標名	学校図書館図書標準冊数に対する充足率						単位	%
	説明・算定式	蔵書数÷学校図書館図書標準冊数×100							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		68	72	77	77	77	77	
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
各学校で計上した図書購入費に各校200千円を追加配当して図書を整備し、学校図書の蔵書数を増加させました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価		
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	学校図書館図書の整備は市の施策として充実されるべきものと考えています。図書購入費を追加配当することにより、学校図書館図書が整備されます。
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	学校図書館図書を整備することは、児童が自己教育力を養う上で重要な役割を担っており、主体的な学習が可能となり、かつ豊かな情操を育むことができます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	学校で予算執行するため取りまとめの時間がかかるため検討が必要です。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低		

今後に向けた課題の分析  
 早い時期に国の定める標準冊数に達するよう予算の確保に努めます。

## 3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			図書の充実	図書の充実	図書の充実	図書の充実	図書の充実	図書の充実
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	22,704	16,778	11,641	11,641	11,641	11,641
事業費 (A)		0	22,704	16,778	11,641	11,641	11,641	11,641
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	924	924	920	920	920	920
フルコスト (A+B)		0	23,628	17,702	12,561	12,561	12,561	12,561

## 4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
● 現状の規模で継続    ○ 拡大して継続    ○ 縮小して継続    ○ 廃止    ○ 休止    ○ 終了    ○ 他事業と統合	
<判断理由> 各学校の図書整備費の要求額に追加配当を行うことで学校図書館図書の蔵書数を増やしていきます。	
平成22年度 of 取組方針	
学校図書館図書の蔵書数の充実により学習環境の向上を図ります。	
課長コメント	学校図書は、児童の知的活動を増進し、人間形成や情操を養う上で学校教育上重要な役割を担っています。文部科学省が策定した「学校図書館図書標準」に沿い、学校図書館図書の整備を図っていきます。

## 5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		各学校で計上した図書購入費に各校377千円を追加配当して図書を整備し、学校図書の蔵書数を増加させた。	各学校で計上した図書購入費に各校200千円を追加配当して図書を整備し、学校図書の蔵書数を増加させました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		早い時期に国の定める標準冊数に達するよう予算の確保に努める。	早い時期に国の定める標準冊数に達するよう予算の確保に努めます。
事業の方向性	—	拡大して継続	現状の規模で継続
取組方針		学校図書館図書の蔵書数の充実により学習環境の向上を図る。	学校図書館図書の蔵書数の充実により学習環境の向上を図ります。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

# 事業評価シート（平成20年度分）

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	中学校学校図書館図書充実事業		
事業担当	教育総務部 教育総務課		
予算科目	01-100301-040000	事業種類	<input type="radio"/> ハード <input checked="" type="radio"/> ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	生徒・教員	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
学校図書館をさらに充実することで、生徒の主体的な学習が可能になり、豊かな情操・確かな学力がはぐくまれています。		学習情報センターとしての学校図書館を機能させるため、調べ学習などで利用する学校図書館図書を充実します。	

## 2. 事業の検証

活動指標①	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
成果指標①	指標名	学校図書館図書標準冊数に対する充足率						単位	%
	説明・算定式	蔵書数÷学校図書館図書標準冊数×100							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		76	79	82	82	82	82	
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
各学校で計上する図書購入費に各校200千円を追加配当して図書を整備し、学校図書の蔵書数を増加させました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価		
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	学校図書館図書の整備は市の施策として充実されるべきものと考えてます。図書購入費を追加配当することにより、学校図書館図書が整備されています。
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	文部科学省で定める学校図書館図書標準に対し整備率が低いことから継続して学校図書館図書の整備に努める必要があります。	● 高 ○ 低
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	学校図書館図書を整備することは、生徒が自己教育力を養ううえで重要な役割を担っており、主体的な学習が可能となり、かつ豊かな情操を育むことができます。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	各学校で予算執行するため取りまとめに時間がかかるので検討が必要であります。	○ 高 ● 中 ○ 低

今後に向けた課題の分析  
 早い時期に国の定める標準冊数に達するよう予算の確保に努めます。

## 3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			図書の充実	図書の充実	図書の充実	図書の充実	図書の充実	図書の充実
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	14,482	10,304	8,257	8,257	8,257	8,257
事業費 (A)		0	14,482	10,304	8,257	8,257	8,257	8,257
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	924	924	920	920	920	920
フルコスト (A+B)		0	15,406	11,228	9,177	9,177	9,177	9,177

## 4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
● 現状の規模で継続    ○ 拡大して継続    ○ 縮小して継続    ○ 廃止    ○ 休止    ○ 終了    ○ 他事業と統合	
<判断理由> 各学校の図書整備費の要求額に追加配当を行うことで学校図書館図書の蔵書数を増やしていきます。	
平成22年度 of 取組方針	
学校図書館図書の蔵書数の充実により学習環境の向上を図ります。	
課長コメント	学校図書は、生徒の知的活動を増進し、人間形成や情操を養う上で学校教育上重要な役割を担っている。文部科学省が策定した「学校図書館図書標準」に沿い、学校図書館図書の整備を図っていきます。



## 5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		各学校で計上する図書購入費に各校420千円を追加配当して図書を整備し、学校図書の蔵書数を増加させた。	各学校で計上する図書購入費に各校200千円を追加配当して図書を整備し、学校図書の蔵書数を増加させました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		早い時期に国の定める標準冊数に達するよう予算の確保に努める。	早い時期に国の定める標準冊数に達するよう予算の確保に努めます。
事業の方向性	—	拡大して継続	現状の規模で継続
取組方針		学校図書館図書の蔵書数の充実により学習環境の向上を図る。	学校図書館図書の蔵書数の充実により学習環境の向上を図ります。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	小学校理科教材等充実事業						
事業担当	教育総務部 教育総務課						
予算科目	01-100201-040000			事業種類	○ ハード      ● ソフト		
総合計画の位置付け	01	基本目標 1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち					
	01	① 〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ					
	06	6 教育施設・機能を充実する					
根拠法令等	理科教育振興法						
対象・受益者	児童・教員			事業期間			
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】						
目的・目標				事業の概要			
観察・実験を通して、児童の問題解決の能力を育て、科学的な見方や考え方が養われています。				科学的な知識、技能及び態度を習得させるとともに、工夫創造の能力を養うため、理科教材を充実します。			

## 2. 事業の検証

活動指標①	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	理科教育等設備整備基準整備率						単位	%
	説明・算定式	整備金額 ÷ 整備基準金額 × 100							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		62.1	64.4	66.6	66.6	66.6	66.6	
	実績		60.9	63.8					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
各学校で計上した理科教材購入費に各校50千円を追加配当して理科教材を整備し、理科教材の充実を図りました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	理科教材の整備は市の施策として充実されるべきものと考えています。理科教材購入費を追加配当することにより、学校の理科教材が整備されます。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	文部科学省で設定している理科教育等設備基準に対し整備率が低いことから、継続して教材教具の整備に努める必要があります。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	科学的な知識、技能及び態度の習得と工夫創造の能力を養い、理科好きな児童が増えるように理科教材の整備を図ります。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	各学校で予算執行するため、取りまとめに時間がかかるので検討が必要です。	○ 高 ● 中 ○ 低	
<b>今後に向けた課題の分析</b> 早い時期に国の設備基準に達するよう予算の確保に努めます。				

## 3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			理科教材の充実	理科教材の充実	理科教材の充実	理科教材の充実	理科教材の充実	理科教材の充実
財源内訳	国庫支出金	0	193	226	200	200	200	200
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	11,493	7,932	8,056	8,056	8,056	8,056
事業費 (A)		0	11,686	8,158	8,256	8,256	8,256	8,256
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	1,007	1,007	1,003	1,003	1,003	1,003
フルコスト (A+B)		0	12,693	9,165	9,259	9,259	9,259	9,259

## 4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
● 現状の規模で継続    ○ 拡大して継続    ○ 縮小して継続    ○ 廃止    ○ 休止    ○ 終了    ○ 他事業と統合	
<b>&lt;判断理由&gt;</b> 各学校の理科教材購入費の要求額に追加配当を行うことで理科教材の整備を進めます。	
平成22年度 of 取組方針	
理科教材を整備することにより学習環境の向上を図ります。	
課長コメント	教材・教具等の充実は、より良い教育活動を推進する上で不可欠なものであり、今後も継続して整備を進めていきます。

## 5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		各学校で計上した理科教材購入費に各校150千円を追加配当して理科教材を整備し、理科教材の充実を図った。	各学校で計上した理科教材購入費に各校50千円を追加配当して理科教材を整備し、理科教材の充実を図りました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		早い時期に国の設備基準に達するよう予算の確保に努める。	早い時期に国の設備基準に達するよう予算の確保に努めます。
事業の方向性	—	拡大して継続	現状の規模で継続
取組方針		理科教材を整備することにより学習環境の向上を図る。	理科教材を整備することにより学習環境の向上を図ります。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

# 事業評価シート（平成20年度分）

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	中学校理科教材等充実事業		
事業担当	教育総務部 教育総務課		
予算科目	01-100301-050000	事業種類	<input type="radio"/> ハード <input checked="" type="radio"/> ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等	理科教育振興法		
対象・受益者	生徒・教員	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/>		
目的・目標		事業の概要	
観察・実験を通して、生徒の問題解決の能力を育て、科学的な見方や考え方が養われています。		科学的な知識、技能及び態度を習得させるとともに、工夫創造の能力を養うため、理科教材を充実します。	

## 2. 事業の検証

活動指標①	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
成果指標①	指標名	理科教育等設備整備基準整備率						単位	%
	説明・算定式	整備金額÷整備基準金額×100							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		50.6	52.4	54.1	54.1	54.1	54.1	
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
各学校で計上した理科教材購入費に各校50千円を追加配当して理科教材を整備し、理科教材の充実を図りました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	理科教材の整備は市の施策として充実されるべきものと考えてます。理科教材購入費を追加配当することにより、学校の理科教材が整備されています。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	文部科学省で設定している理科教育等設備基準に対し整備率が低いことから継続して教材教具の整備に努める必要があります。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	科学的な知識、技能及び態度の習得と工夫創造の能力を養い、理科好きな生徒が増えるように理科教材の整備を図ります。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	各学校で予算執行するため取りまとめに時間がかかるので検討が必要です。	○ 高 ● 中 ○ 低	
今後に向けた課題の分析 早い時期に国の設備基準に達するよう予算の確保に努めます。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			理科教材の充実	理科教材の充実	理科教材の充実	理科教材の充実	理科教材の充実	理科教材の充実
財源内訳	国庫支出金	0	193	226	200	200	200	200
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	8,397	7,146	7,084	7,084	7,084	7,084
事業費 (A)		0	8,590	7,372	7,284	7,284	7,284	7,284
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	1,007	1,007	1,003	1,003	1,003	1,003
フルコスト (A+B)		0	9,597	8,379	8,287	8,287	8,287	8,287

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
● 現状の規模で継続    ○ 拡大して継続    ○ 縮小して継続    ○ 廃止    ○ 休止    ○ 終了    ○ 他事業と統合	
<判断理由> 各学校の理科教材購入費の要求額に追加配当を行うことで理科教材の整備を進めます。	
平成22年度の実行方針	
理科教材を整備することにより学習環境の向上を図ります。	
課長コメント	教材・教具等の充実は、より良い教育活動を推進する上で不可欠なものであり、今後も継続して整備を進めていきます。

## 5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		各学校で計上した理科教材購入費に各校150千円を追加配当して理科教材を整備し、理科教材の充実を図った。	各学校で計上した理科教材購入費に各校50千円を追加配当して理科教材を整備し、理科教材の充実を図りました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		早い時期に国の設備基準に達するよう予算の確保に努める。	早い時期に国の設備基準に達するよう予算の確保に努めます。
事業の方向性	—	拡大して継続	現状の規模で継続
取組方針		理科教材を整備することにより学習環境の向上を図る。	理科教材を整備することにより学習環境の向上を図ります。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	小学校体育館耐震補強事業		
事業担当	教育総務部 教育施設課		
予算科目	01-100203-010000	事業種類	● ハード ○ ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等	地震防災対策特別措置法		
対象・受益者	児童・生徒及び教員、その他の学校利用者	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】		
	目的・目標		事業の概要
	体育館の耐震性を高め、災害時の倒壊を防止することにより、児童などの安全が確保されています。		児童などの安全及び避難施設の安全を確保するため、昭和56年（新耐震設計基準）以前に建築された体育館の耐震補強を実施します。

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	耐震補強工事実施校数						単位	校
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		1	2	2	3	5	-	
	実績		1	3					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	耐震基準を満たす学校数の割合						単位	%
	説明・算定式	耐震基準を満たしている学校数÷全小学校数（28校）×100 ※平成22年度から対象小学校数を27校とする（花水小学校体育館は改築とするため対象外）							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		50	57	64	78	100	-	
	実績		50	61					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
耐震補強工事（神田小、なでしこ小、富士見小）及び耐震補強設計（城島小、松が丘小、金目小）を実施しました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								



事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	耐震補強工事により、教育環境の改善及び児童生徒の安全確保という事業の目的が達成されるため、必要性は高いです。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	体育館の耐震性を高め、災害時の倒壊を防止することで、児童生徒の安全が確保されるため、本事業は市民満足度を高める有効性は高いです。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	体育館の耐震性能を確保することで、児童生徒の安全確保や地域拠点整備をすることから妥当性は高いです。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	耐震補強工事に併せて老朽化している施設を整備することで今後の維持管理費のコスト削減に繋がるため、効率性は高いです。	● 高 ○ 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

耐震化の完了について、計画性をもって整備を進めていく必要があります。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			耐震診断、補強設計、補強工事	補強設計、補強工事	耐震補強設計、耐震補強工事	耐震補強設計、耐震補強工事	耐震補強工事	—
財源内訳	国庫支出金	0	23,100	92,844	67,103	122,637	254,798	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	45,000	234,000	128,000	371,000	809,000	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	47,837	42,229	32,147	52,117	90,344	0
事業費 (A)		0	115,937	369,073	227,250	545,754	1,154,142	0
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.60	0.60	0.35	0.35	0.35	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	5,035	5,035	2,925	2,925	2,925	0
フルコスト (A+B)		0	120,972	374,108	230,175	548,679	1,157,067	0

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
● 現状の規模で継続    ○ 拡大して継続    ○ 縮小して継続    ○ 廃止    ○ 休止    ○ 終了    ○ 他事業と統合	
<判断理由> 引き続き、耐震補強工事を実施していきます。	
平成22年度取組方針	
小学校3校の耐震補強工事を予定しています。	
課長コメント	大規模地震がいつ起こるか分からない状況の中で、国の方針として、また、小・中学校の体育館を避難施設としての位置づけしている本市においても耐震化することは急務であると考えます。

## 5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		耐震補強工事（相模小）、耐震補強設計（神田小、なでしこ小、富士見小）、耐震診断（みずほ小、松延小、南原小、真土小、旭小、勝原小、城島小、金目小、松が丘小）を実施し、児童などの安全や避難施設の安全の確保を進めた。	耐震補強工事（神田小、なでしこ小、富士見小）及び耐震補強設計（城島小、松が丘小、金目小）を実施しました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		耐震化の完了を目標とする平成24年度までに計画性をもって整備を進めていく必要がある。	耐震化の完了について、計画性をもって整備を進めていく必要があります。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		小学校2校の耐震補強工事を予定している。なお、平成24年度までに完了できるよう計画性をもって取り組んでいく。	小学校3校の耐震補強工事を予定しています。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	中学校体育館耐震補強事業		
事業担当	教育総務部 教育施設課		
予算科目	01-100303-010000	事業種類	● ハード      ○ ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標 1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等	地震防災対策特別措置法		
対象・受益者	児童・生徒及び教員、その他の学校利用者	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
体育館の耐震性を高め、災害時の倒壊を防止することにより、生徒などの安全が確保されています。		生徒などの安全及び避難施設の安全を確保するため、昭和56年（新耐震設計基準）以前に建築された体育館の耐震補強を実施します。	

## 2. 事業の検証

活動指標①	指標名	耐震補強工事実施校数						単位	校
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		1	1	3	2	—	—	
	実績		1	1					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	耐震基準を満たす学校数の割合						単位	%
	説明・算定式	耐震基準を満たしている学校数÷対象中学校数（14校）×100							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		57	64	86	100	—	—	
	実績		57.1	64					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
耐震補強工事（大住中）、耐震補強設計（山城中、神明中、神田中、金旭中、江陽中）を実施し、生徒などの安全や避難施設の安全の確保を進めました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	耐震補強工事により、教育環境の改善及び児童生徒の安全確保という事業の目的が達成されるため、必要性は高いです。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	体育館の耐震性を高め、災害時の倒壊を防止することで、児童生徒の安全が確保されるため、本事業は市民満足度を高める有効性は高いです。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	体育館の耐震性能を確保することで、児童生徒の安全確保や地域拠点整備することから妥当性は高いです。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	耐震補強工事に併せて老朽化している施設を整備することで今後の維持管理費のコスト削減に繋がるため、効率性は高いです。	● 高 ○ 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

耐震化の完了について、計画性をもって整備を進めていく必要があります。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			耐震診断、補強設計、補強工事	補強設計、補強工事	耐震補強工事	耐震補強工事	-	-
財源内訳	国庫支出金	0	52,327	44,790	112,941	70,403	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	97,000	127,000	397,000	547,000	0	0
	その他 特財	0	24,000	0	0	0	0	0
	一般財源	0	39,784	40,850	44,459	61,720	0	0
事業費 (A)		0	213,111	212,640	554,400	679,123	0	0
執行率 (%)		-	-	-				
内訳	職員 (人)	0.00	0.50	0.50	0.35	0.35	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	4,196	4,196	2,925	2,925	0	0
フルコスト (A+B)		0	217,307	216,836	557,325	682,048	0	0

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 引き続き、体育館の耐震補強工事を実施していきます。	
平成22年度 of 取組方針	
中学校2校の耐震補強工事を予定しています。	
課長コメント	大規模地震がいつ起こるか分からない状況の中で、国の方針として、また、小・中学校の体育館を避難施設としての位置づけしている本市においても耐震化することは急務であると考えます。

## 5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		耐震補強工事（土沢中）、耐震補強設計（大住中）、耐震診断（山城中、神明中、金旭中）を実施し、生徒などの安全や避難施設の安全の確保を進めた。	耐震補強工事（大住中）、耐震補強設計（山城中、神明中、神田中、金旭中、江陽中）を実施し、生徒などの安全や避難施設の安全の確保を進めました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		耐震化の完了を目標とする平成24年度までに計画性をもって整備を進めていく必要がある。	耐震化の完了について、計画性をもって整備を進めていく必要があります。
事業の方向性	—	拡大して継続	拡大して継続
取組方針		中学校2校の耐震補強工事を予定している。なお、平成24年度までに完了できるよう計画性をもって取り組んでいく。	中学校2校の耐震補強工事を予定しています。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	小学校校舎改修事業		
事業担当	教育総務部 教育施設課		
予算科目	01-100203-020000	事業種類	● ハード      ○ ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標 1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	児童・生徒及び教員、その他の学校利用者	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
老朽化した校舎の大規模な改修をすることにより、機能向上が図られています。		教育環境の改善及び児童などの安全確保を図るため、校舎を改修し耐久性を確保します。	

## 2. 事業の検証

活動指標①	指標名	改修工事実施校数						単位	校
	説明・算定式	平成23年度までの実施校数：3校							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		-	1	-	-	1		
	実績		-	1					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	校舎を改修した学校の割合						単位	%
	説明・算定式	平成23年度を100%とした改修された校舎の割合							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		-	33	-	66	100		
	実績		-	33					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
神田小学校校舎の改修工事を実施しました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	校舎改修工事により、教育環境の改善という事業の目的が達成されるため、必要性は高いです。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	老朽化している校舎を改修することにより、教育環境の改善や機能向上が図られますので、有効性は高いです。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	老朽化している校舎を改修することにより、機能向上が図られることから妥当性は高いです。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	老朽化している校舎を改修することにより、今後の維持管理のコスト削減に繋がるため、効率性は高いです。	● 高 ○ 中 ○ 低	
<b>今後に向けた課題の分析</b> 老朽化している校舎について、今後、計画的に改修します。				

## 3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			—	校舎改修工事	校舎改修工事に伴う計画・打合せ	校舎改修工事に伴う計画・打合せ		
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	11,550	0	0	0	0
事業費 (A)		0	0	11,550	0	0	0	0
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.00	0.40	0.20	0.20	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	0	3,357	1,672	1,672	0	0
フルコスト (A+B)		0	0	14,907	1,672	1,672	0	0

## 4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<b>&lt;判断理由&gt;</b> 次年度の校舎改修に向けて計画的に事業を進める必要があります。	
平成22年度の実行方針	
次年度の校舎改修に向けて、計画的に事業を進めます。 なお、具体的な工事を実施しないことから、実施計画事業として位置づけません。	
課長コメント	工事等の実施については、一定の成果がありましたので、今後もこの規模を継続して実施します。

## 5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	—	①：予定どおり
主な取組と成果		—	神田小学校校舎の改修工事を実施しました。
検証結果	—	—	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題			老朽化している校舎について、今後、計画的に改修します。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針			次年度の校舎改修に向けて、計画的に事業を進めます。 なお、具体的な工事を実施しないことから、実施計画事業として位置づけられないこととします。
事業区分	—	実施計画事業	事務事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。





事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	校舎改修工事により、教育環境の改善という事業の目的が達成されるため、必要性は高いです。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	老朽化している校舎を改築することにより、教育環境の改善や機能向上が図られますので、有効性は高いです。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	老朽化している校舎を改修することにより、機能向上が図られることから妥当性は高いです。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	老朽化している校舎を改修することにより、今後の維持管理のコスト削減に繋がるため、効率性は高いです。	● 高 ○ 中 ○ 低	
今後に向けた課題の分析		老朽化している校舎について、今後、計画的に改修します。		

## 3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			—	校舎改修工事	校舎改修工事に伴う計画・打合せ	校舎改修工事	—	—
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	23,000	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	8,720	0	107,997	0	0
事業費 (A)		0	0	31,720	0	107,997	0	0
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.00	0.50	0.20	0.20	0.20	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	0	4,196	1,672	1,672	1,672	0
フルコスト (A+B)		0	0	35,916	1,672	109,669	1,672	0

## 4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 次年度の校舎改修に向けて計画的に事業を進める必要があります。	
平成22年度 of 取組方針	
次年度の校舎改修に向けて、計画的に事業を進めます。	
課長コメント	工事等の実施については、一定の成果がありましたので、今後もこの規模を継続して実施します。

## 5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	—	①：予定どおり
主な取組と成果		—	神田中学校校舎の改修工事を実施しました。
検証結果	—	—	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題			老朽化している校舎について、今後、計画的に改修します。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針			次年度の校舎改修に向けて、計画的に事業を進めます。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	太洋中学校体育館整備改築事業		
事業担当	教育総務部 教育施設課		
予算科目	01-100303-030000	事業種類	● ハード      ○ ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標 1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	児童・生徒及び教員、その他の学校利用者	事業期間	～ 平成22年度
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
老朽化した体育館を改築することにより、体育環境の充実が図られています。		整備必要面積の基準を満たさず、耐力度調査で危険建物の認定を受けたことから、充実した体育環境の整備を行い、生徒などの安全及び避難施設の安全を確保するため、太洋中学校体育館を改築します。	

## 2. 事業の検証

活動指標①	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	体育館整備改築進捗率						単位	%
	説明・算定式	平成22年度を100%とした体育館整備改築進捗率 H20：改築設計10%、H21：改築工事40%、H22：改築工事50%							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		-	10	50	100	-	-	
	実績		-	10					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
太洋中学校体育館の整備改築設計を実施しました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価		
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	改築するにあたり学校関係者等と協議することは事業の目的を達成するために必要性は高いです。 地域住民から体育館の改築の期待が高まっており、改築することで教育・体育環境の向上等が図られ、市民満足度の有効性が高いです。 建物自体の耐震強度は非常に弱く耐震対策が必要な建物であるため、改築する事業の目的の妥当性が高いです。 改築することにより維持管理費のコスト削減に繋がることから効率性は高いです。
今後に向けた課題の分析 必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高いです。又、事業が完了できるよう計画的に進めていく必要があります。						

## 3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			—	改築設計	改築工事	改築工事	—	—
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	105,766	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	75,000	366,000	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	7,087	122,234	0	0
事業費 (A)		0	0	0	82,087	594,000	0	0
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.00	0.40	0.35	0.35	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	0	3,357	2,925	2,925	0	0
フルコスト (A+B)		0	0	3,357	85,012	596,925	0	0

## 4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<b>&lt;判断理由&gt;</b> 平成23年2月までに体育館が完成できるよう事業を進めていきます。	
平成22年度の取組方針	
体育館を新築します。	
課長コメント	体育館の解体や新築工事等計画的に完了できるよう事業を進めます。

## 5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	—	①：予定どおり
主な取組と成果			太洋中学校体育館の整備改築設計を実施しました。
検証結果	—	—	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。引き続き、学校関係者・関係機関と改築の詳細について協議していくことが必要となる。	必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高いです。又、事業が完了できるよう計画的に進めていく必要があります。
事業の方向性	—	拡大して継続	拡大して継続
取組方針			体育館を新築します。
事業区分	—	—	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	強化磁器食器導入事業		
事業担当	教育総務部 学校給食課		
予算科目	01-100204-020000	事業種類	● ハード      ○ ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	児童	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
磁器食器の導入により、食環境が改善されています。		楽しく豊かな食環境整備を図るため、単独調理場へ強化磁器食器の導入と設備備品などを整備します。	

## 2. 事業の検証

活動指標①	指標名	食器改善実施校数						単位	校
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		-	1	1	1	1	1	
	実績		-	1					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	食器改善率						単位	%
	説明・算定式	食器改善済学校数 ÷ 全28小学校							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		-	78.5	82.1	85.7	89.2	92.8	
	実績		-	78.5					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
計画通り崇善小学校の食器を強化磁器食器に切り替えることができました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	食環境の向上の面で明るく楽しい雰囲気の中で給食を食べることができる環境を整備することが、より豊かな食事の場となり、よい食事マナーを身につけることに繋がることから食育の面から必要です。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	生徒に安全・安心な給食を提供するためには有効です。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	生徒に安全・安心な給食を提供するためには妥当です。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	設備・備品の整備については、入札を実施しており、現状での効率性があります。	● 高 ○ 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

3校目である港小学校に磁器食器を導入、設備・備品を整備します。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			—	磁器食器の導入、 必要備品の整備	磁器食器の導入、 必要備品の整備	磁器食器の導入、 必要備品の整備	磁器食器の導入、 必要備品の整備	磁器食器の導入、 必要備品の整備
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	15,155	16,763	19,235	19,235	19,235
事業費 (A)		0	0	15,155	16,763	19,235	19,235	19,235
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.00	2.40	2.40	2.40	2.40	2.40
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	0	20,139	20,055	20,055	20,055	20,055
フルコスト (A+B)		0	0	35,294	36,818	39,290	39,290	39,290

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
● 現状の規模で継続    ○ 拡大して継続    ○ 縮小して継続    ○ 廃止    ○ 休止    ○ 終了    ○ 他事業と統合	
<判断理由> 設備・備品の整備は計画的に進めているので、現状を維持します。	
平成22年度の実行方針	
食環境の向上の面で明るく楽しい雰囲気の中で給食を食べることができる環境を整備します。	
課長コメント	明るく楽しい給食の場が整備され又正しい姿勢で食事ができるよになるなどマナーの習得に成果があったと考えられる。。残りの6校についても早急に導入を図りたいと考えています。



## 5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	—	①：予定どおり
主な取組と成果			計画通り崇善小学校の食器を強化磁器食器に切り替えることができました。
検証結果	—	—	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題			3校目である港小学校に磁器食器を導入、設備・備品を整備します。
事業の方向性	—	—	現状の規模で継続
取組方針			食環境の向上の面で明るく楽しい雰囲気の中で給食を食べることができる環境を整備します。
事業区分	—	—	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。